



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月26日

上場会社名 積水樹脂株式会社

上場取引所 東大

コード番号 4212 URL <http://www.sekisuijushi.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 福井 彌一郎

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 菊池 友幸

TEL 06-6365-3204

四半期報告書提出予定日 平成24年11月8日

配当支払開始予定日

平成24年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	27,880	3.4	3,180	2.1	3,370	9.3	1,910	10.0
24年3月期第2四半期	26,961	6.6	3,115	4.8	3,084	1.8	1,737	1.1

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 1,692百万円 (△3.1%) 24年3月期第2四半期 1,746百万円 (42.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	42.99	—
24年3月期第2四半期	39.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	85,350	61,806	71.6
24年3月期	89,631	60,686	67.0

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 61,082百万円 24年3月期 60,009百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	13.00	23.00
25年3月期	—	11.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 24年3月期期末配当金の内訳 普通配当10円 特別配当3円

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,000	6.3	9,100	4.6	9,100	3.7	5,100	3.5	114.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料の4ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料の4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	47,313,598 株	24年3月期	47,313,598 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年3月期2Q	2,884,165 株	24年3月期	2,863,776 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	44,439,493 株	24年3月期2Q	44,452,209 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関しましては添付資料の3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興の遅れや電力供給問題、原材料価格高騰に加え、欧州債務危機問題等の影響とあいまって長期化する円高・株安など、依然として厳しい状況で推移しました。

このような経営環境下において、当社グループは、中期経営計画「JEX-2013 (Jushi-Expansion2013)」の最終年度の目標達成に向けて、3つの戦略(シェアNo.1戦略、グローバル戦略、M&A・アライアンス戦略)をさらに推進すべく、国内におきましては、「安全・安心・環境」と「減災・防災」に貢献する新製品の開発・上市に注力し、2年毎に開催いたしております「新製品発表会2012」を当社滋賀工場内の性能確認試験走路「道夢道」において、9月に実施いたしました。また、7月に持分法適用会社である近藤化学工業株式会社の株式を追加取得し、さらなる事業提携の強化を図りました。一方、海外におきましては、6月にオランダ王国にて道路反射鏡製品の組立加工・販売を営むBimex B.V.を買収し、欧州における交通安全事業の拡大の礎を構築いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は278億8千万円(前年同期比3.4%増)、営業利益は31億8千万円(前年同期比2.1%増)、経常利益は33億7千万円(前年同期比9.3%増)、四半期純利益は19億1千万円(前年同期比10.0%増)となりました。

①都市環境関連事業分野

交通安全製品は、車線分離柵「ポールコーン」が、生活道路の交通安全対策に使用されるとともに、ロンドンオリンピックの会場周辺道路にも採用され大幅な売上増となりました。路面標示材は、道路塗料の事業譲受効果ともあいまって顕著な伸びを示しました。防音壁は、新東名高速道路の大型物件減少により前年同期を下回る結果となりました。人工芝は、温度上昇抑制機能や緩衝マットを備えた「ドリームターフ」が好調に推移しましたほか、テニスコート用人工芝「サンドグラス」が高い耐久性を評価され、国体会場となる運動公園に採用されるなど売上を伸ばしました。また、人工木材は、耐候性・耐久性に優れた「スーパーオレンジウッド」が建材メーカー向けに大きく伸長しましたほか、天然木に近い風合いを持つ「角型テンダーウッド」が、マンションなどの外装材として順調な伸びを示しました。

この結果、都市環境関連事業の売上高は78億5千8百万円(前年同期比1.1%増)、営業利益は9億7千6百万円(前年同期比14.5%減)となりました。

②街路・住建関連事業分野

歩行者用防護柵は、通学路などの歩行者安全対策に採用されるとともに、積雪地域や沿岸部における高強度柵・高耐久柵など地域に特化した製品の提案営業が功を奏し売上を伸ばしました。高欄は、橋梁の長寿命化に伴う補修工事が増加するなか、「ビューレイル」の施工性が評価され堅調な成績を収めました。また、ソーラー発電シェルター「エコシェル」並びにソーラー照明灯「アーバンソーラー」は、環境と電力不足に対応した製品として評価され売上伸長を示しました。メッシュフェンスやめかくし塀は、マンションの着工数増加を背景に、デザイン性と施工性に優れた製品の品揃え強化や積極的な受注活動により大幅な売上増となりました。メタカラー建材は、店舗用陳列ケースの化粧パネルなどの受注減少により前年同期を下回る成績となりました。アルミ樹脂複合板は、ビルの建替需要の増加に伴い、防音パネル「ビルガード」が軽量性・耐久性を評価されるとともに、新製品の上市ともあいまって堅調に推移しました。

この結果、街路・住建関連事業の売上高は104億4千万円(前年同期比5.0%増)、営業利益は13億9千5百万円(前年同期比9.8%増)となりました。

③産業・生活関連事業分野

包材関連製品は、消費低迷に伴い需要が大きく減少するなか、新規販売ルートの開拓を行い、柔らかく使用後に廃棄しやすい「ゆうバンド」が食品業界等に売上を伸ばしましたものの、既存ルート向けが低調に推移いたしました結果、前年同期並の成績に終わりました。デジタルピッキングシステム製品は、衣料品会社の物流センターや自動車関連メーカーへの積極的な提案営業により好調な成績を収めました。組立システムパイプ製品は、レンタル業界などの新規分野への販路拡大策が功を奏し順調な伸びを示しました。生活関連製品は、厳しい価格競争や消費低迷などの影響により売上減を余儀なくされました。緑関連製品は、農家向けの需要の低迷により農業用支柱は伸び悩みましたものの、園芸用支柱は、耐久性と安全性などの高い品質が評価されホームセンターに採用されるなど前年同期を上回る成績となりました。

この結果、産業・生活関連事業の売上高は95億6千9百万円(前年同期比3.7%増)、営業利益は11億6千5百万円(前年同期比8.2%増)となりました。

④その他事業

保険手数料収入は前年同期並みに推移し、売上高は1千3百万円(前年同期比0.7%増)、営業利益は6百万円(前年同期比11.0%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産の状況

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ42億8千万円減少し853億5千万円となりました。主に、受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ11億1千9百万円増加し618億6百万円となりました。主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。純資産から少数株主持分を控除した自己資本は610億8千2百万円となり、自己資本比率は71.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ12億6千6百万円増加(5.9%増)し、228億5千万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益31億9千5百万円に加え、売上債権の減少等による資金増加の一方、棚卸資産の増加や仕入債務の減少、法人税等の支払を行ったこと等により、56億2千4百万円の収入となりました(前年同期は34億5千3百万円の収入)。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得等により、37億6千9百万円の支出となりました(前年同期は3億5千6百万円の支出)。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の減少や配当金の支払等により、6億8千7百万円の支出となりました(前年同期は14億1千2百万円の支出)。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、平成24年7月27日に公表しました「平成25年3月期 第1四半期決算短信」における業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,583	23,850
受取手形及び売掛金	28,777	20,218
商品及び製品	2,944	2,935
仕掛品	746	961
原材料及び貯蔵品	2,425	2,583
その他	3,013	2,790
貸倒引当金	△52	△33
流動資産合計	59,438	53,305
固定資産		
有形固定資産	16,227	15,918
無形固定資産	413	508
投資その他の資産		
その他	13,737	15,802
貸倒引当金	△185	△185
投資その他の資産合計	13,552	15,617
固定資産合計	30,193	32,044
資産合計	89,631	85,350
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,809	12,133
短期借入金	2,250	2,150
未払法人税等	2,314	1,204
引当金	802	629
その他	4,096	3,898
流動負債合計	25,272	20,016
固定負債		
退職給付引当金	3,440	3,304
役員退職慰労引当金	24	26
その他	206	195
固定負債合計	3,672	3,527
負債合計	28,944	23,544

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,334	12,334
資本剰余金	13,187	13,187
利益剰余金	37,005	38,362
自己株式	△1,935	△1,946
株主資本合計	60,591	61,937
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	195	△66
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	△776	△788
その他の包括利益累計額合計	△582	△855
少数株主持分	677	723
純資産合計	60,686	61,806
負債純資産合計	89,631	85,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	26,961	27,880
売上原価	18,990	19,638
売上総利益	7,970	8,241
販売費及び一般管理費	4,854	5,061
営業利益	3,115	3,180
営業外収益		
持分法による投資利益	7	217
その他	169	131
営業外収益合計	176	348
営業外費用		
支払利息	85	82
為替差損	72	54
その他	50	21
営業外費用合計	207	158
経常利益	3,084	3,370
特別損失		
減損損失	—	91
投資有価証券評価損	9	69
固定資産除売却損	8	14
特別損失合計	17	175
税金等調整前四半期純利益	3,067	3,195
法人税等	1,289	1,230
少数株主損益調整前四半期純利益	1,777	1,964
少数株主利益	40	53
四半期純利益	1,737	1,910

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,777	1,964
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△106	△258
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	70	△11
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△3
その他の包括利益合計	△31	△271
四半期包括利益	1,746	1,692
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,706	1,638
少数株主に係る四半期包括利益	40	54

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,067	3,195
減価償却費	585	596
減損損失	—	91
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△76	△112
投資有価証券評価損益 (△は益)	9	69
売上債権の増減額 (△は増加)	5,763	8,641
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△589	△304
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,661	△3,535
その他	△429	△777
小計	5,670	7,864
利息及び配当金の受取額	99	97
利息の支払額	△81	△78
法人税等の支払額	△2,234	△2,258
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,453	5,624
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△261	△488
投資有価証券の取得による支出	△301	△25
短期貸付金の増減額 (△は増加)	400	300
長期性預金の預入による支出	△2,000	△3,000
長期性預金の払戻による収入	2,000	—
その他	△193	△555
投資活動によるキャッシュ・フロー	△356	△3,769
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△799	△100
配当金の支払額	△604	△576
その他	△8	△10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,412	△687
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,696	1,174
現金及び現金同等物の期首残高	20,696	21,583
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	92
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,392	22,850

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	都市環境 関連事業	街路・住建 関連事業	産業・生活 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,775	9,946	9,225	26,947	13	26,961
セグメント間の内部売上 高又は振替高	0	2	103	107	6	113
計	7,775	9,949	9,329	27,055	19	27,074
セグメント利益	1,142	1,271	1,077	3,490	6	3,497

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,490
「その他」の区分の利益	6
全社費用(注)	△382
四半期連結損益計算書の営業利益	3,115

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	都市環境 関連事業	街路・住建 関連事業	産業・生活 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,858	10,440	9,569	27,867	13	27,880
セグメント間の内部売上 高又は振替高	0	4	87	92	4	96
計	7,858	10,444	9,656	27,959	17	27,977
セグメント利益	976	1,395	1,165	3,538	6	3,544

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,538
「その他」の区分の利益	6
全社費用(注)	△364
四半期連結損益計算書の営業利益	3,180

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部であります。